

# 序

いまや社会情勢は急速な発展と変革を遂げつつありますが、景気、雇用対策等社会経済において、国内的にも国際的にも大きな課題をかかえています。

特に物的資源の乏しいわが国が、世界各国との協調のもとに、将来にわたって発展し続けるためには、教育の力に負うところが大きく、人間性の開発と、文化の向上を図り、教育、学術及び文化の国際交流を通じて、諸外国との相互理解を深めることが必要であります。

このような中であって、全市民が生涯を通じて、自ら主体的に学習する能力と意欲を身につけ、心豊かな生きがいのある人生を築いていくために、日常生活の中で、多様な学習意欲を満たすことができるような生涯教育環境の整備が必要であります。

そのため、生涯教育のあり方を視点として、家庭教育、学校教育、社会教育のそれぞれの役割を明確にし、市民が生涯にわたり必要な教育を受けることができる施策の展開を図らねばならないと考えます。

このたび、足利市教育目標設定委員会から、5年間にわたる調査研究と広く市民の意見を反映した「足利市の教育目標」のまとめが教育委員会に答申され、正式に設定をみたことはまことに意義深いものがあります。

今後は、この教育目標を本市文教行政の基調として、個人の創意と自主性並びに社会連帯意識を涵養する知・徳・体の調和のとれた教育を推進し、明るく豊かな地域社会足利市の創造に貢献する人づくりに努め、古来から足利学校を中心として脈々と流れる伝統のうえに、更に新たな文化と伝統が築かれますことをお願いいたします。

おわりに、5年間にわたり教育目標の調査研究にあたられました教育目標設定委員並びに教育研究所の皆様に深く敬意を表する次第です。

昭和56年1月

足利市長 町田幸久